

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 25 日	
所属部局・職	京都大学理学研究科・修士課程学生
氏名	櫻井貴之

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本, 屋久島
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習 (ヤクザル, ヤクシカの調査)
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 5 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 19 日 (7 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学 霊長類研究所 半谷吾郎教授,
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>私はこの実習において、屋久島全体のヤクザルの分布調査を行った。この実習において、私の属する班はヤクザルの分布と標高や植生の関係を明らかにすることを目的とし、林道に沿ってヤクザルを探索し、ヤクザルを発見した場所と標高や植生の関連を QGIS で解析した。この実習以前にフィールドワークの経験が全くなかった私にとって、印象的だったこと、また、今後細胞生物学の研究をする際に参考になると感じたことを以下にまとめる。</p> <p>最初に、調査方法についてである。今回はヤクザルを直接観察すること、鳴き声を聞くこと、糞をみつけることをヤクザルの「発見」としたが、実際は糞でヤクザルの存在を確認することが多かった。特に、私が調査した西部林道では 120 個以上の糞が見つかった。この際、糞が同じ個体により同時に落とされたものか識別する方法が問題となった。この時に感じたのは、調査方法の設計の難しさである。フィールドワークでは、調査条件を現地の状況や調査対象の性質に沿って変えると同時に、一般性や合理性を保たなければならない。私が西部林道で調査をしていた際には、糞がどれほど近くにあるとも、糞の新鮮さや内容物の様子が違った場合、違う個体、もしくは異なる時間に落とされた糞だと判断した。しかし、このように糞が多量に見つかる状況は他の調査地では見られなかったため、他のメンバーにとって想像しがたく、糞の識別に関する議論が長引いた。そのため、珍しい状況に遭遇した際は、写真などを用いた分かりやすい状況の記録が必要だと再確認した。これは私の本来の研究に対しても大事な教訓となる。例えば、目的の細胞小器官を顕微鏡で観察しているとき、少しでもおかしいと感じたら必ず記録し、写真を撮ること、またその時に、他人にも自分の主張したい部分がはっきりと伝わるような写真を撮ることを意識して、今後の研究を行っていききたい。他にも、珍しい状況に対処することに傾倒しすぎず、例外として別の識別条件を設けたり、過去の調査の結果を考慮して判断したりすることも可能だったのではないかと後に気づいた。</p> <p>次に結果考察についてである。調査の結果、ヤクザルは標高の低いところ、集落から遠いところより多く分布していた。これは以前までの調査で明らかになったことと一致する。今回の実習中に話し合った際、島の東北部でヤクザルの発見がなかったため、集落があるためヤクザルが少ないという考察があった。しかし、そもそも今回は島の東北部は調査していないので、この地域でのヤクザルと集落の関係は論じることはできない。しかし、私が調査した一湊の林道において、南側では猿の糞がある程度見つかったが、中盤、北側では全く見られなかった。このことは、一湊の集落に近づけば近づくほど、ヤクザルの生息数が少ないといえる。よって、島の東北部でのさらなる調査が必要であり。それによりヤクザルの分布と集落の関係に関する仮説をより説得力のあるものにすることができるかもしれない。また、ヤクザルの分布と植生に関しては、標高に関わらず、森林が多い地域にヤクザルが多く分布することが分かった。加えて、果実を多くつける植物の分布とヤクザルの分布の関係を解析することができれば、より興味深い調査になると思った。</p> <p>全体を通して、今回の実習は分子生物学を専攻している私にとっても非常に有意義であった。まず、フィールドワークを経験すること自体が一番の収穫であった。調査の条件検討や結果の考察は、普段の研究では出てこないような内容であり、それゆえにもう一度自身の研究での実験の設計や考察の仕方を再確認したいと思うことができた。ヤクザルという地域特異的な生物種を対象とし、またその糞を主に調査した</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ことで、モデル生物を用いた研究のメリットを痛感した。また、今回の実習では普段あまり関わることのない野生研、霊長研の学生が参加していて、彼らのいろいろな研究の話など、とても興味深い話を聞くことができた。それに加え、留学生が多数参加していたため、英語を話す貴重な機会になっただけでなく、留学生たちの研究に対する姿勢に多くの刺激を受けた。これらの有意義な経験を後の研究に大いに活かしていきたい。



(左) 宮之浦岳登山途中に鹿(写真左下)に遭遇



(右) 西部林道でヤクザルの群れに遭遇

### 6. その他 (特記事項など)

今回の屋久島実習に参加するにあたり、ご支援いただいた PWS に心より感謝申し上げます。またお世話になりました半谷先生、本郷さん、栗原さん、本田さん、そして共に実習に参加したみなさんにも感謝申し上げます。